

松南地区のあゆみ

地域学習資料

原始のようす

区分	時代	事象	推敲	
原始	縄文	・平畑遺跡(弘法山北);中期土器、打製石斧・石鏃	未発見の面もあろうが、沖積地ゆえ生活基盤ではなかったか。	
		・出川南遺跡(南部公園口、発掘);中期土器(1)		
		・出川遺跡(篠ノ井線東);石錐、凹凸		
	弥生	・平畑遺跡(発掘);後期住居址(5)、方形周溝墓(4)、条痕文土器(前期)、石戈、多頭石斧		奈良井川、田川の流域、また出川、井川城など湧水地であることが、水田耕作の好立地に転じ、集落を形成するようになった。また「ムラからクニ」への転換期を迎え、弘法山古墳に埋納された首長の後背地を形成したのだらう。
		・精美堂遺跡(平田里の一部);箱清水式土器		
		・出川西遺跡(南松本1・2丁目);中期～後期の土器(壺、高坏、甕など)土器片60点、石包丁。東部からは、弘法山と同じ濃尾系の土器あり。		
	・出川南遺跡;弥生末期の土器片、同期の磨製石鏃、小型扁平片刃石斧、土製勾玉			

古代松南は、先進地！

区分	時代	事象	推敲
古代	古墳	・ 出川西遺跡；土壌内に石棺墓、土師器、甑など。西部は中期の祭祀遺構か	各遺跡は連なり、一体的な集落（クニ）と言えよう。遺構・遺物からは多様な生活面とともに祭祀など精神生活もうかがえる。また、平田里のように古墳も変容し、市内唯一の埴輪群も発見されている。当時としては、好条件を備えた先進地域ではなかろうか。
		・ 高宮遺跡；5世紀の水田祭祀遺構か。...土師器の高坏、勾玉、ガラス玉、鉄剣など	
		・ 出川南（原口）遺跡；甕・壺・高坏（一部赤色彩色）・土器片多数。竪穴建物（7）ほか、... 前期から中期の集落社で、弘法山古墳の後背地 と想定される。	
		・ 弘法山古墳；3世紀末の県内最古の前方後方墳...土壌内に川原石を敷き、箱式木棺を埋納。副葬品...斜縁式獣文鏡（銘「上方作竟」）鉄剣、銅鏃、鉄鏃、ガラス玉、壺、高坏、手焙り形土器など20.数点（東海系）	
	・ 平田里古墳（出川南遺跡に属す）；古墳3基（周溝のみ）、住居址（105）、 埴輪 多数（市内唯一の埴輪、5C前半～6C初）		
奈良・平安	・ 平畑遺跡；奈良住居址（2）、平安住居址（3）、墳墓（3）	前代の名残はあるものの、衰退が著しい。自然要因に一元化できないが、 水脈の変化 が想定される。徐々に居住地の移転を余儀なくされたのか。	
	・ 出川南（平田里）遺跡；平安住居址（3）...平安中期に奈良井川からの分流が枯渇したか？		
	・ 平田北遺跡（キッセイ付近）；竪穴住居社（27）建物群（10）...古墳末期～平安前期の大集落（出川南と連なる）		

松南地区の遺跡群

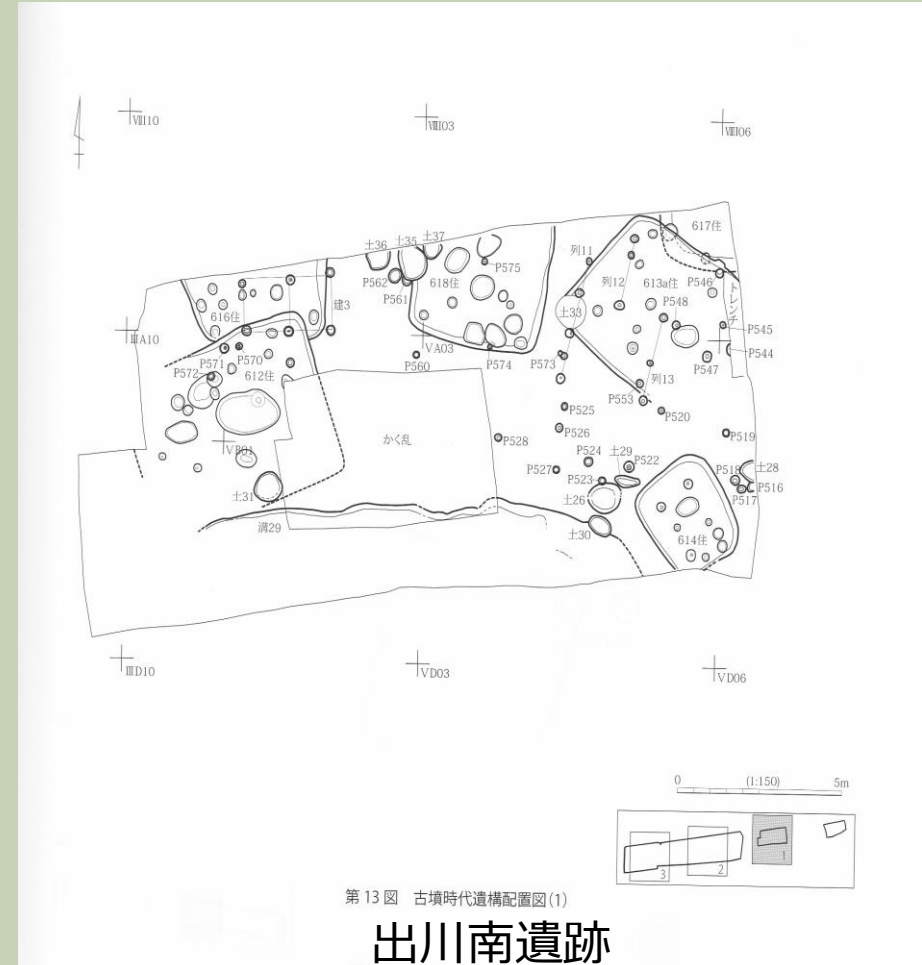


平田里古墳出土埴輪

出土した遺物と遺構



出川西遺跡



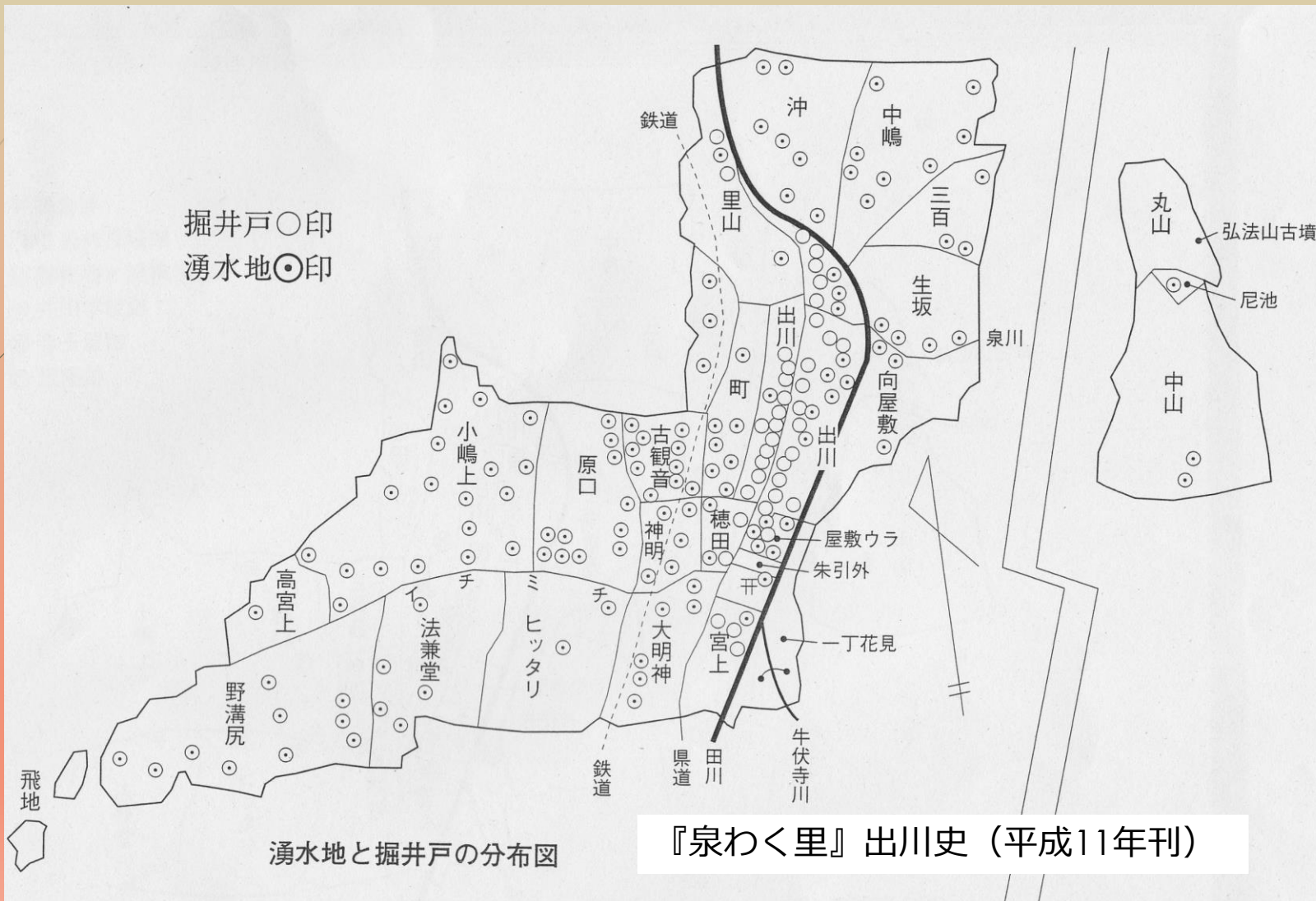
鎌倉	<p>・1186年;後白河法皇が、捧中村庄・捧北条庄に年貢を督促。</p>	<p>捧庄の位置、展開などは不明だが、当地をうかがえる希少な記録である。井川城を居城とする小笠原氏も登場。地域の土豪との拮抗が垣間見られる時代となる。</p>
	<p>・1210年代;捧庄地頭に大内惟義が就任 *大内氏=佐久の平賀氏の出自</p>	
<p>・1330年頃、捧庄地頭に北条時英が就任</p>		
<p>・1335年;小笠原貞宗が足利尊氏から軍恩として住吉庄(安曇)を得る。地頭の小笠原氏は井川城を居館に、深志庄と拮抗する捧庄の利権争いを展開。</p>		
室町		

かすかに見える中世の姿

姿が見えない? 近世

時代	事象	推敲その他
安土桃山	・ 1566年；諏訪上社宝殿造替に高原瀬（出川）・波柳・小島・征矢野が協力	
	・ 1582年；松本平で織田・武田が対立した際、木曾義昌が征矢野・鎌田に陣取り深志城をうかがう。	
	・ 1582年；小笠原貞慶、深志入城。	
江戸	・ 1590年；石川教正、深志入城。	<p>・ 松南地区は、概ね「出川町村」「高宮村」地籍に属す。しかし集落を形成しておらず、原野に農耕地が点在する地域と想定され、記録に記されない不明の地域である。小字名や寺社伝承にわずかに歴史の片鱗が見られる。</p>
	<p>・ 出川町村；北国脇往還沿いに発達し、寛永（1630年代）年間に「出川町」として宿場機能をもつ。</p> <p>* 慶安4年（170半ば）の検地帳に、「畑の部」として小字名「ひったり塚」「ほけとう（法華堂）」「のみそさかい、のみそ志り（野溝尻）」と記される地域が、概ね松南地区にあたる。</p>	
	・ 高宮新田村；多賀神社付近の人家が寛永年間に鎌田村から分村。…間口・奥行きを整然とした街並み。	
	<p>・ 史跡伝承；</p> <p>(1) 古観音堂跡地（南松1）…年代不詳だが現イオン南東端から移転⇒寛永4（1626）年、多賀神社に遷座</p> <p>(2) 法華堂…6世紀～。昭和18（1943）年、出川の大慈堂に合霊（S17;宮田製作所建設による）</p> <p>(3) 多賀大明神前々座跡地（野溝尻）…現日穀製粉から現東京インテリア（原口）に移転。</p>	

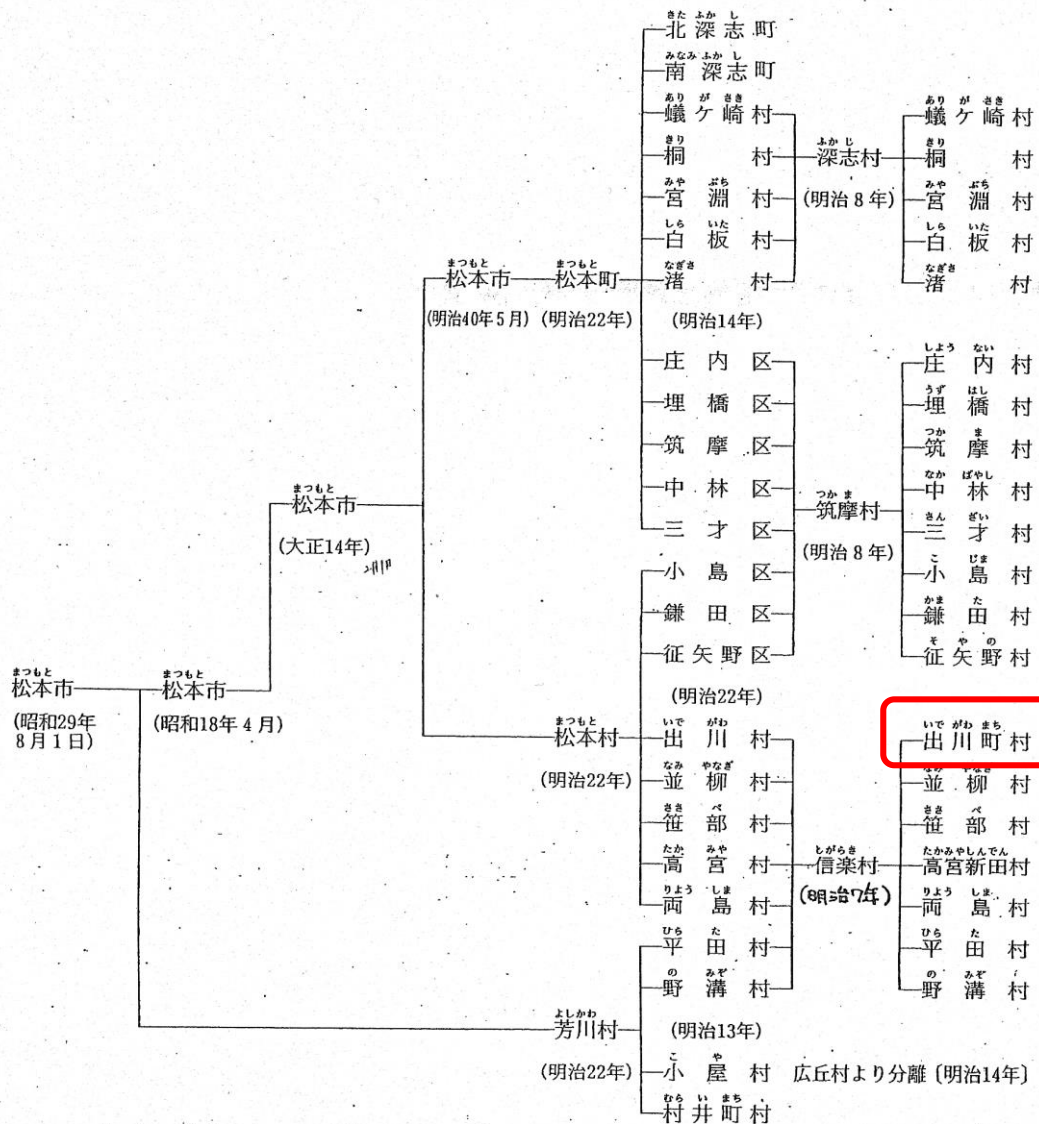
江戸時代の小字と湧水地～出川町の一部～



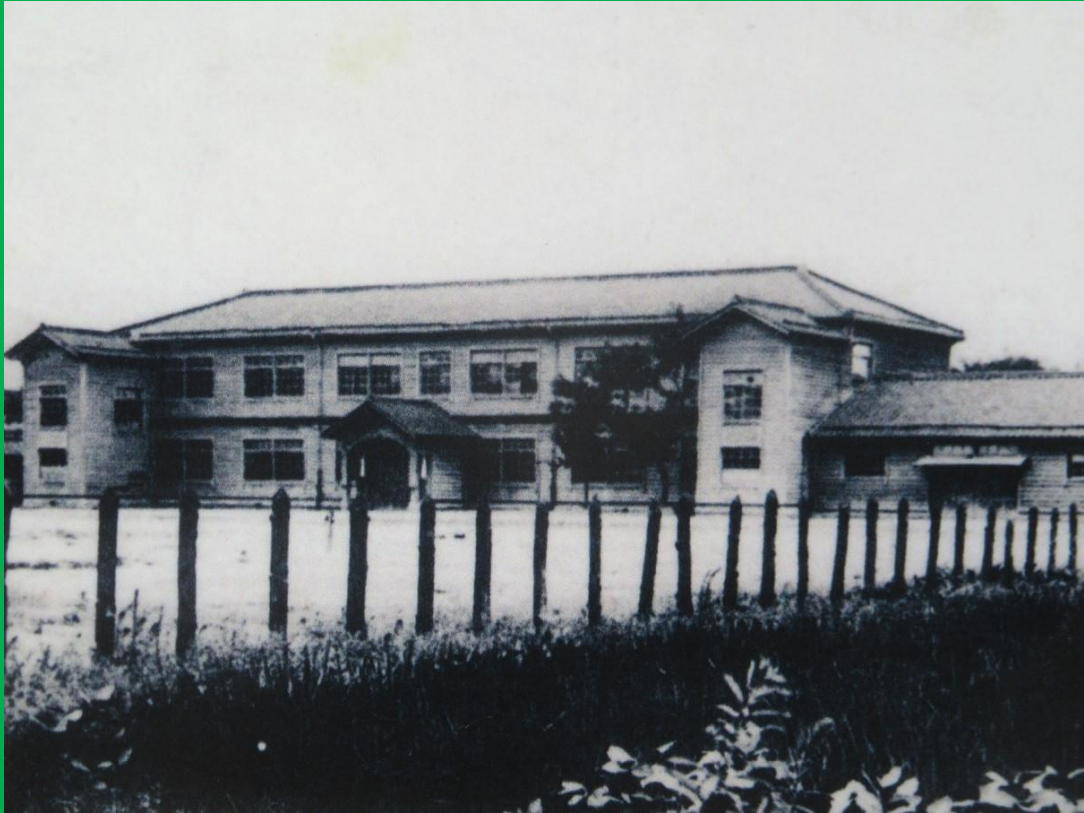
近代～松本村から松本市へ～

時代	事象	推敲その他
明治	・ 1869年；松本藩主戸田光則、版籍奉還⇒藩知事に。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕藩体制の崩壊で廃藩置県や市制町村制の施行で「松本村」に編入された。しかし村落は江戸時代を踏襲しており、当地区は農耕地（桑畑など）が広まり、集落の形成は見られなかった。 ・ 篠ノ井線の開通は、鉄路で結ぶ新時代への道でもあった。
	・ 1871年；廃藩置県で「松本県」に	
	・ 1874年； 信楽村 = 出川町村 ・並柳村・笹部村・高宮新田村・両島村・平田村・野溝村の合併	
	・ 1889年； 松本村 = 出川・並柳・笹部・高宮・小島村 + 筑摩村の一部（鎌田・征矢野・両島の田川西地区）が合併 ⇒ 平田・野溝 + 小屋・村井町 = 芳川村に * 松本村概況（1912年）；人口...3.155人 戸数...625戸 反別...571町9反8畝12歩 物産...蚕種、竹行李、薩摩芋、葱、人参	
	・ 1902年；篠ノ井線（塩尻～篠ノ井）開通	
	・ 1907年； 松本市 発足	
大正	・ 1925年； 松本村が松本市に合併 ← 1924年；知事に合併の上申書提出	<ul style="list-style-type: none"> ・ おおむね出川町の地籍に含まれ、畑地として利用されている。笹部に民間飛行場が建設されたことは、遊休地らしさと昭和への道筋を想像させる。
	・ 1925年；合併に伴い、松本市立松本尋常高等小学校 井川部 に。 ⇒1933年；新設された鎌田尋常高等小学校に校舎1棟と移転。	
	・ 1925年； 笹部飛行場設営 ...飛行学生の養成 ⇒ 1938年；笹部に日本放送協会松本放送局を開設	

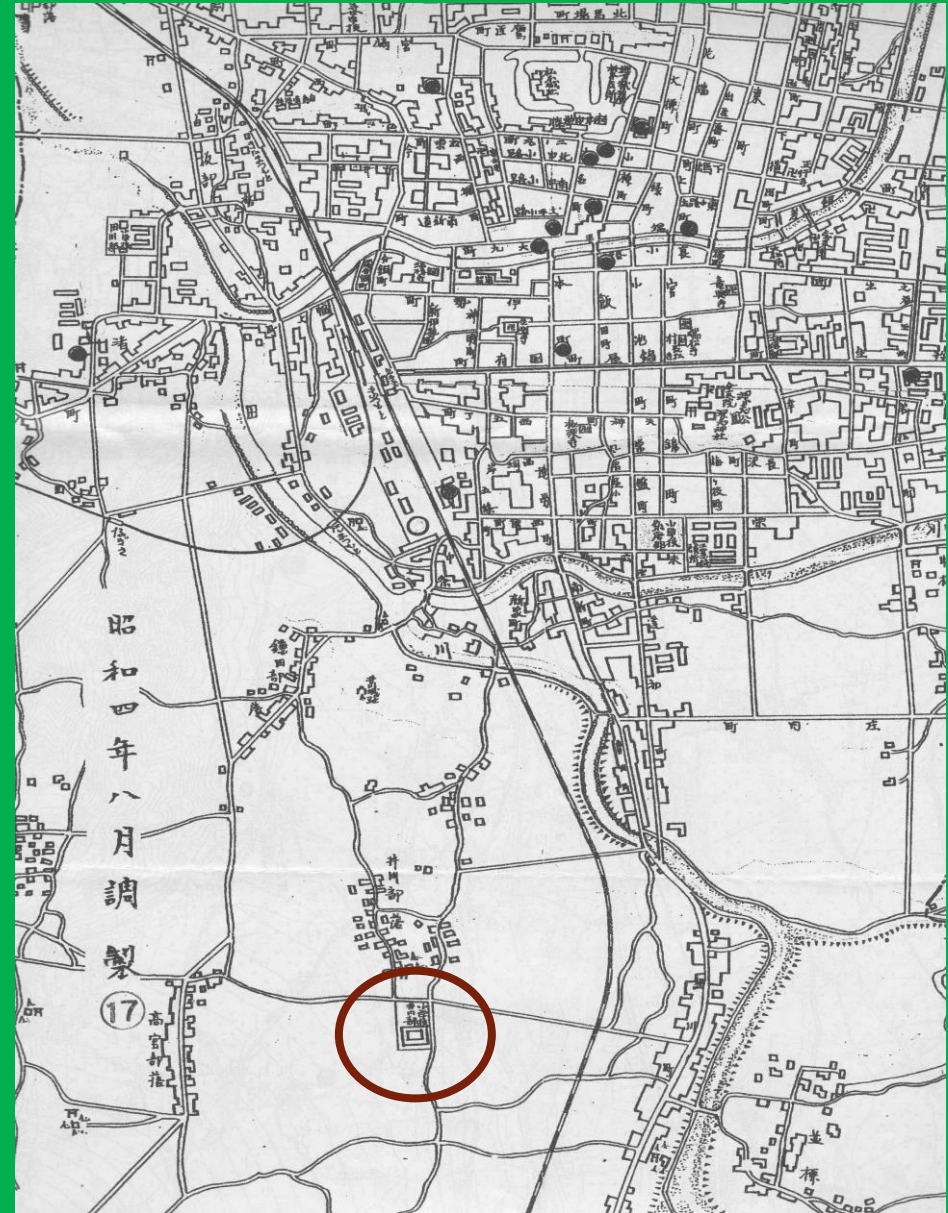
町村は、どう変遷したか？



教育への期待



松本尋常小学校井川部校



昭和6年の地図を見ると



井川部校

軍需の地へ（疎開工場の進出 1）

時代	事象	推敲その他
昭和 (戦前)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1942年12月；軍需工場の「分散計画」が具体化 	<p>・ 1929年の「世界恐慌」以来の「昭和恐慌」は、「製糸の町」である松本にも、大きな経済ダメージとなった。当地区は桑畑が広まり、蚕種の改良などに努めるが、養蚕業の後退は止まらない事態だった。その中で、「50連隊存置運動」や企業の誘致運動が、市政の基本となる。戦況の悪化に伴い、政府は軍事工場の「分散疎開」を進め、松本市も工業力を生かし、この流れに合流した。広大な桑園の広がる当地区には、石川島芝浦タービン、日本ステンレス、宮田製作所が1943年以降、加速度的に疎開してくる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1943年4月；芳川村が松本市と合併 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1943年7月；石川島芝浦タービン松本工場操業…笹部飛行場周辺の畑29万坪（170人の地主） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 同上内に「青年学校」を設立 ⇒ 付属診療所（現丸の内病院）も設置 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場2棟建設⇒順次拡大し、第二期工事として南松本駅からの専用鉄道（2.48km）敷設 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ B29迎撃用「ターボジェットエンジン」の開発研究 *燃料は松根油 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1945年7月；米軍不発弾事故（33名死傷） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1943年10月；陸軍松本飛行場（笹賀・神林・今井）工事開始…熊谷組が施工 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村内の一等地を陸軍省が廉価で事実上、強制収容（承諾書に調印） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本土空襲など戦況悪化に備え、戦闘訓練と爆撃機の修理基地に使用 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労働員（1944年4月～；学徒勤労働員も）、朝鮮人徴用工を使役 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 格納庫（6棟）…3棟は艦上戦闘機の試作改良、隠ぺいの壕（30カ所）。 		

区分	時代	事象	推敲その他
昭和・戦前	近代	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 宮田製作所；1942年に松本工場として建設を決定し19万坪を買収 ⇒ 翌年9月8日、第1工場が竣工 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都蒲田に本社を持つ自転車産業だが、松本に誘致された。 ・ 進出経過や製品は不明だが航空機用車輪や尾翼生産との証言ある。 ・ 社宅（5000坪）が、宮田町を通称。 ・ 従業員3000人の大工場で、松商3年生以上の勤労働員の記録もある。 ・ 戦後も1952年まで自転車工場と社宅が存続していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1945年、本土空襲が本格化すると、三菱重工の研究開発部門が片倉工業など市街地にも疎開し、地下・半地下工場を造成する。まさに、「軍需の町」の様相を濃厚にするのである。米軍戦略爆撃調査団報告書（1945年2～8月）は、三菱エリア（松本市街地）、城山エリア（林、中山）、村井エリア（笹賀）を空爆対象としている。労力は、勤労働員の住民や学徒のほか、朝鮮からの「徴用工」を充てている。
		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日本ステンレス（本社；新潟県直江津市）； 軍需工場の「分散計画」が具体化し（1942年12月）疎開工場として進出。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1938年；出川町町有地「六反ケミ」を買収した記録あり。 ⇒ 南松本1. 2丁目に社宅・独身寮建設 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚雷（「お椀？」）を製造したという証言あり。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 南松本駅から「引込線」があった。 ・ 松商3年生以上の勤労働員の記録あり 	

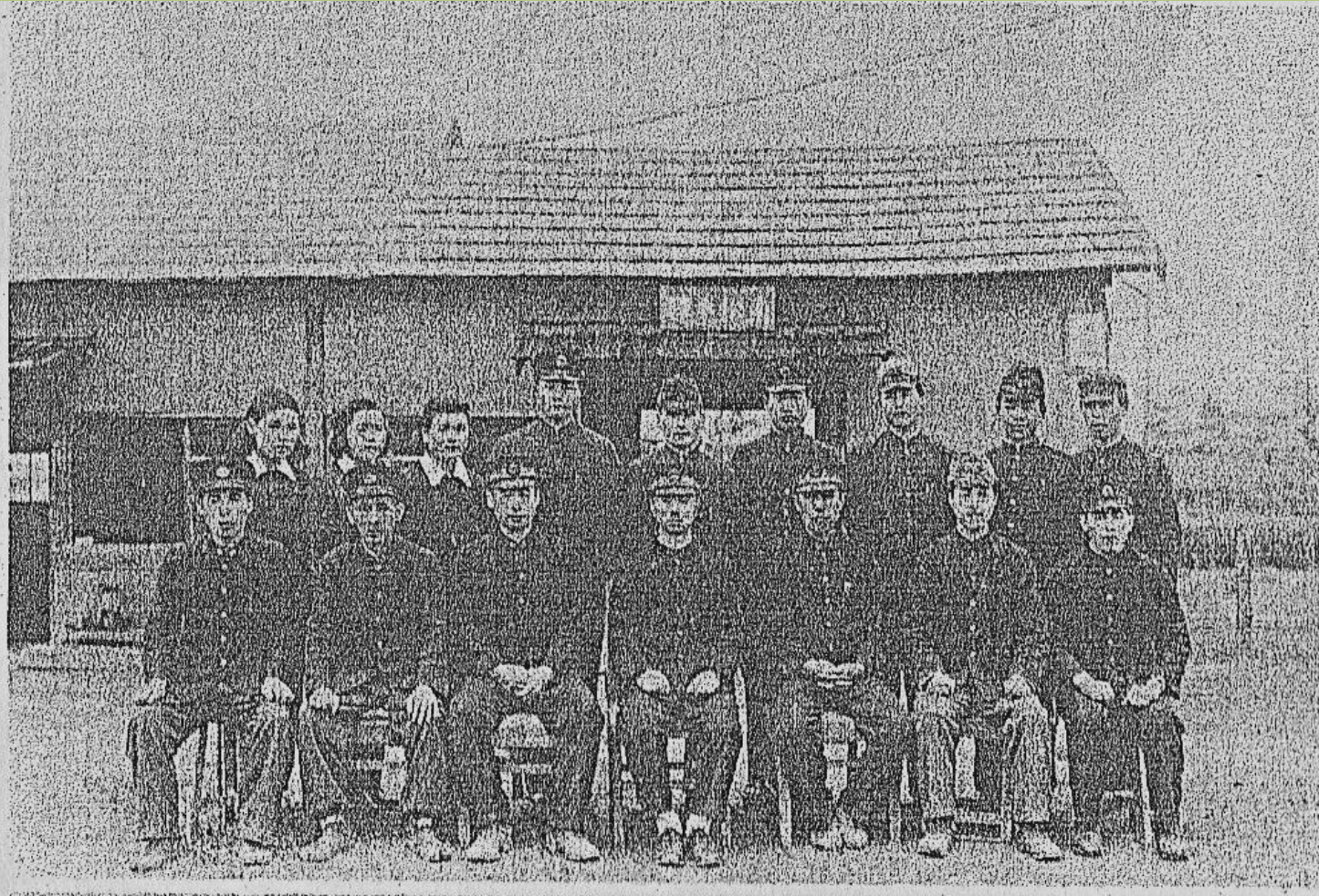
軍需の町へ（疎開工場の進出2）

軍需の町へ（疎開工場の進出3）

区分	時代	事象	推敲その他
近代	昭和・戦前	<p>◇ 1945年2月；三菱重工名古屋製作所の「大分散」 ← 1944年12月；東海大地震＋名古屋空襲</p>	<p>・ しかし、動員も資材の供給も不足し、開発製造した戦闘機用ターボ・ロケットエンジンは、ほとんど未完のまま敗戦を迎えた。こうした作業は秘密裏に勧められたのは無論のこと、またこうした事態の陰に、「満州開拓」「学童疎開」も展開していることも忘れてはならない。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 片倉工業を本体に、石川島タービン、陸軍松本飛行場などにも疎開 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 明道工業学校（43年；松商を改編）…「秋水ロケットエンジン」の開発…敗戦時、埋め立て 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1945年4月～；半地下・地下工場を中山・林地区に建設 	
		<p>◇ 1944年9月；南松本駅開通 ⇒ 引込線を日本ステンレス、石川島芝浦タービンに敷設（上記）</p>	
		<p>☆ 疎開工場の側面；波田への陸地測量部（現国土地理院）</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 波田国民学校北校舎に地図印刷工場を移転 ・ 東大医学部薬学研究室が、波田国民学校へ移転 ・ 宮地鉄工所が、海軍391工場として移転 	

南松本駅の開設

南松本駅。1948（昭和23）年6月、当時の国鉄の職員の記念撮影。
（提供／JR東日本長野支社）

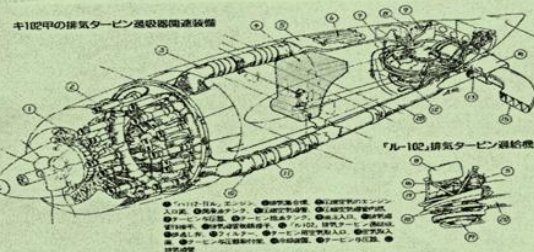


『タウン情報』（2012年6月16日）より

前史

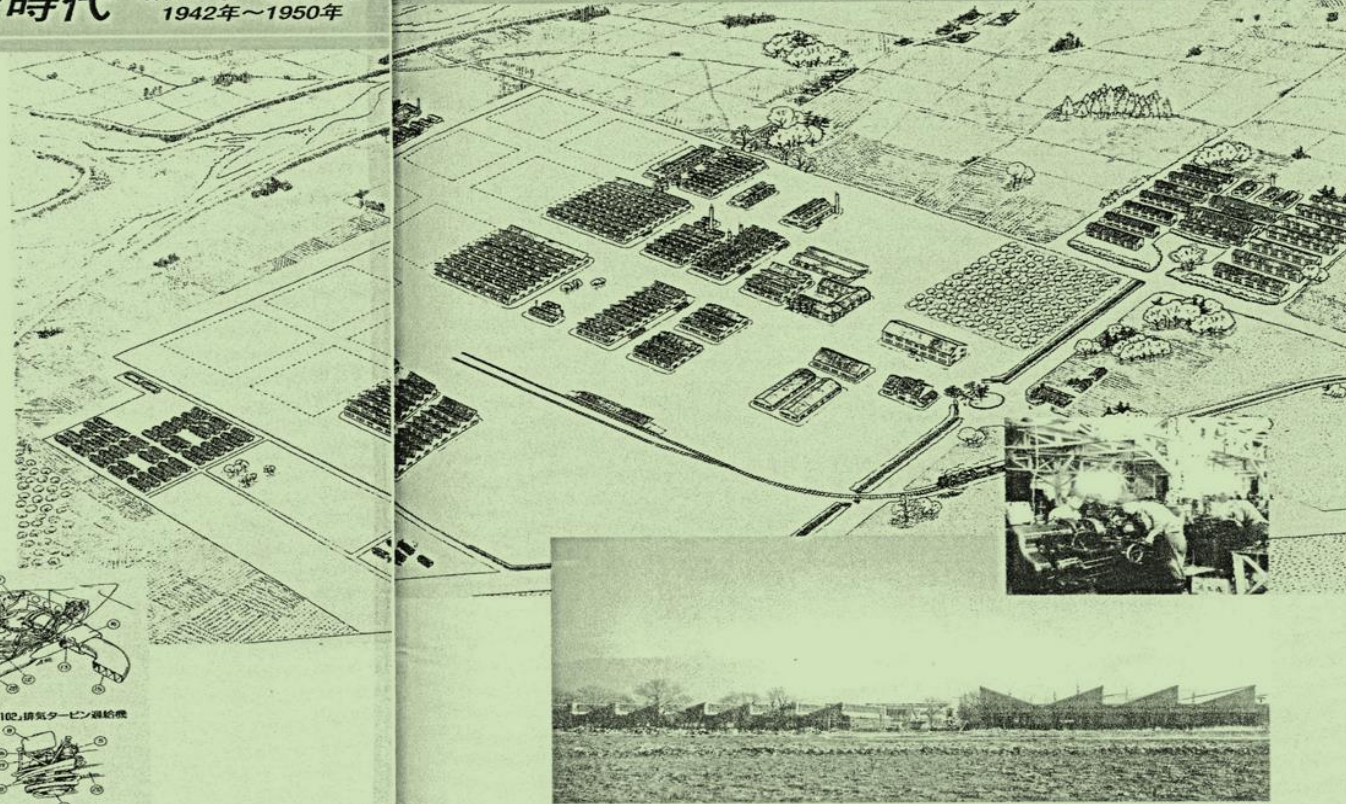
石川島芝浦タービン時代 昭和17年～昭和25年 1942年～1950年

石川島芝浦タービンの工場分散計画により、昭和17年に石川島芝浦タービン松本工場が誕生し、主に戦闘機用排気ガスタービン過給機や弁類を生産した。広大な敷地にはJR南松本駅から鉄道のS13線が敷設されていた。



資料：図解 世界の軍用機史6
日本陸軍軍用機業
株式会社 グリーンアロー出版社
写真撮影・図面作成 野原 茂 殿

戦局ノ推移及本邦生産経済ノ現況ニ鑑ミ本邦ノ工業化ハ
更ニ強力ニ推進スルノ要アリ
工業地帯ヲ造成シ本邦最大ノ総合的ノ山間工業基地ヲラシム
昭和16年長野県工業計画案編より



松本工場鳥瞰図・工場風景（昭和19年頃）

資料 石川島芝浦タービン松本工場(復元図) *同社社史より

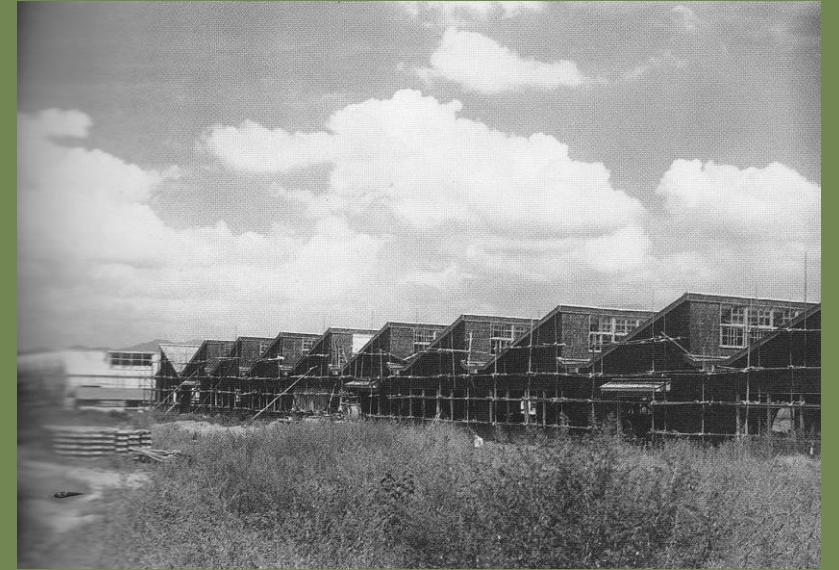
疎開工場（石川島芝浦タービン）風景～「石川島芝浦機械五十年史」～



過給機製造



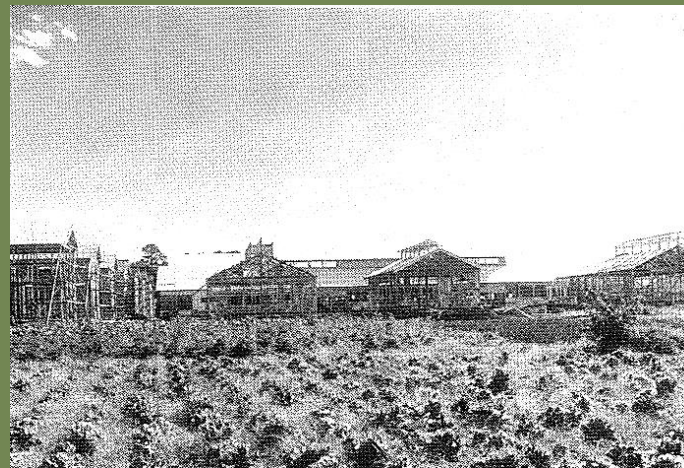
過給機搭載機の飛来



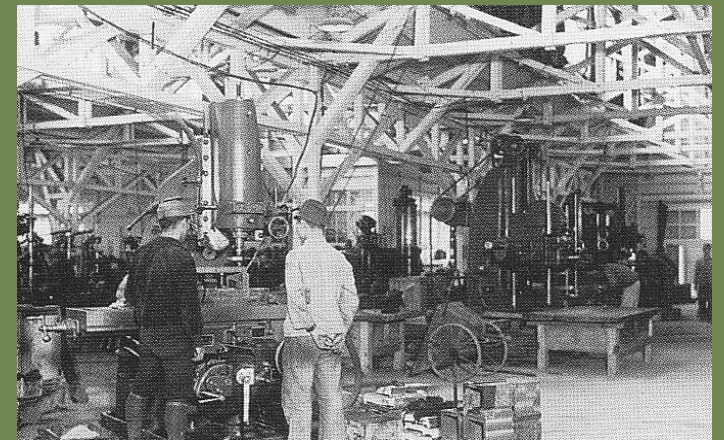
工場全景



社宅



敷地内菜園



学徒動員

米軍松本空爆予定エリア図

松本エリア
(三菱重工など)

村井エリア
(陸軍松本飛行場)

城山エリア
(中山地下壕など)

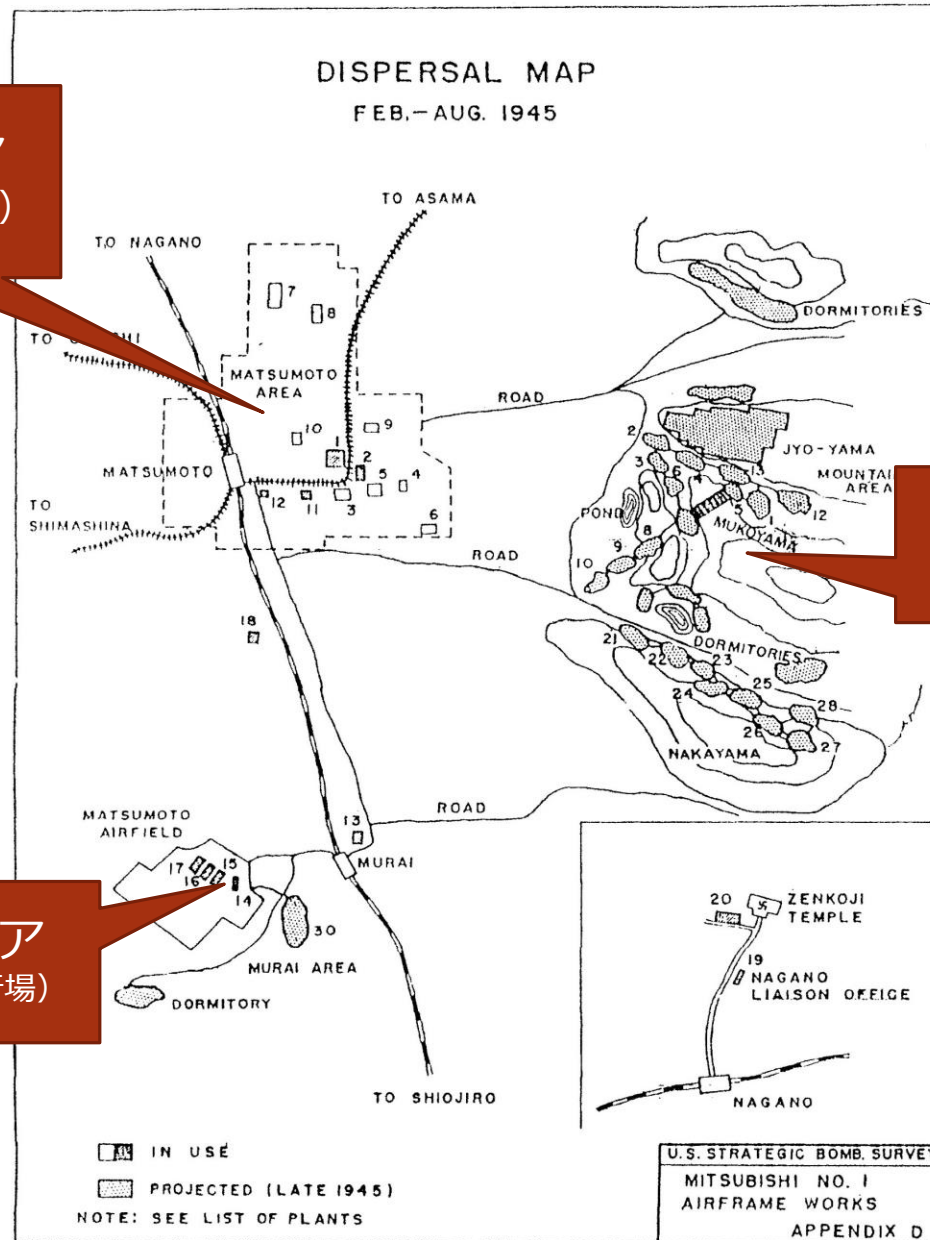


図1 『米軍戦略爆撃調査団調査報告書』 DISPERSAL MAP (分散地図) にみる軍事工場の疎開

戦後復興期の松南地区 1

年	区分	月日	主な出来事	推考その他
1945 (昭和20) 年	松本市	8月15日	○ 終戦の詔勅；「玉音放送」で天皇が国民に敗戦を告知 ・防空壕（市；108 自警団；113） 防火貯水池（市；149 自警団25） ・警戒警報は、138回、空襲警報は7回発令	<p><敗戦直後の松本市の課題（例）></p> <p>(1) 防火のための建物疎開（51戸）、飛行場払下げなど戦後処理問題</p> <p>(2) 物価高騰、50連隊撤退による減収など財政問題</p> <p>(3) 10月の水害（橋流失、堤防決壊）の復旧問題</p>
		8月16日	「グラマン機」50機が飛来し、降伏を伝えるビラを大量散布	
		8月29日	占領軍の先遣隊が松本に入る ⇒ 10月3日；宮田自転車製作所に駐留	
		11月10日	占領軍、疎开工場の実地調査 … 飛行場内の戦闘機を焼却処分（時期不明）	
1946 (昭和21) 年	宮田東町会		引揚者住宅；旧宮田製作所の青年部独身寮4棟（20人/1棟）や社宅を借用し、夫婦用に提供 ⇒ 翌年80戸入居	<p><松南地区の戦後></p> <p>(1) 戦後処理；軍需工場の閉鎖と引揚者の受入れ</p> <p>(2) 財政再建策； 軍需工場跡地を活用し、</p> <p>① 競輪場の開設 ② 警察予備隊の開設</p> <p>(3) 生活の場としてのスタート …南松本町会の発足など</p>
時期不詳	南松本町会	引揚者住宅；旧日本ステンレス社宅を「母子寮」として提供 ⇒宮田東に移転（昭24）		
1948 (昭和23) 年	南松本町会		日本ステンレス閉鎖 ⇒ 南松本町会（現南松本1丁目町会）発足	
		4月1日	南松本保育園開所 * 宮田保育園も開所（時期不詳）	
1949 (昭和24) 年	宮田	6月	南部市営球場建設期成同盟が、日本ステンレスから4000坪を野球場地として買収 松本市競輪(株)を宮田製作所の一部に開設 …市が財源策として設置	

昭和22年
地図に見る痕跡



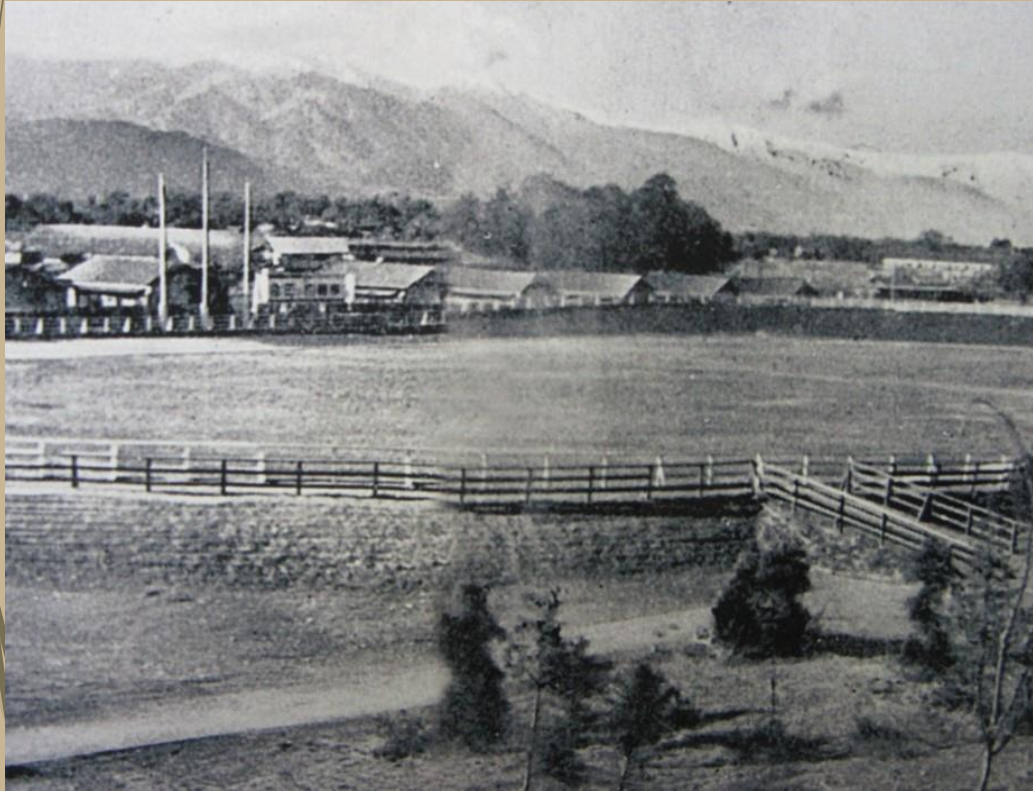
石川島タービン跡地

日本ステンレス跡地

石川島タービンへの引込線

宮田製作所跡地

廃墟から（松本競輪場） = 現開明小学校



宮田製作所跡地の競輪場



宮田東にあった松本競輪場（松本市提供）

松本製紙(株) = 日本ステンレス跡地に

資料提供；原元勝氏



会社全景



貨車を押す



ミーデー参加

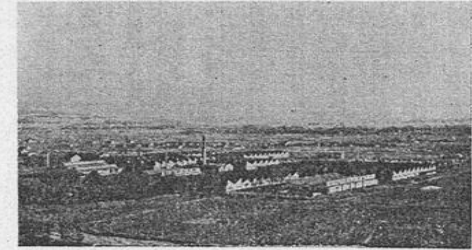
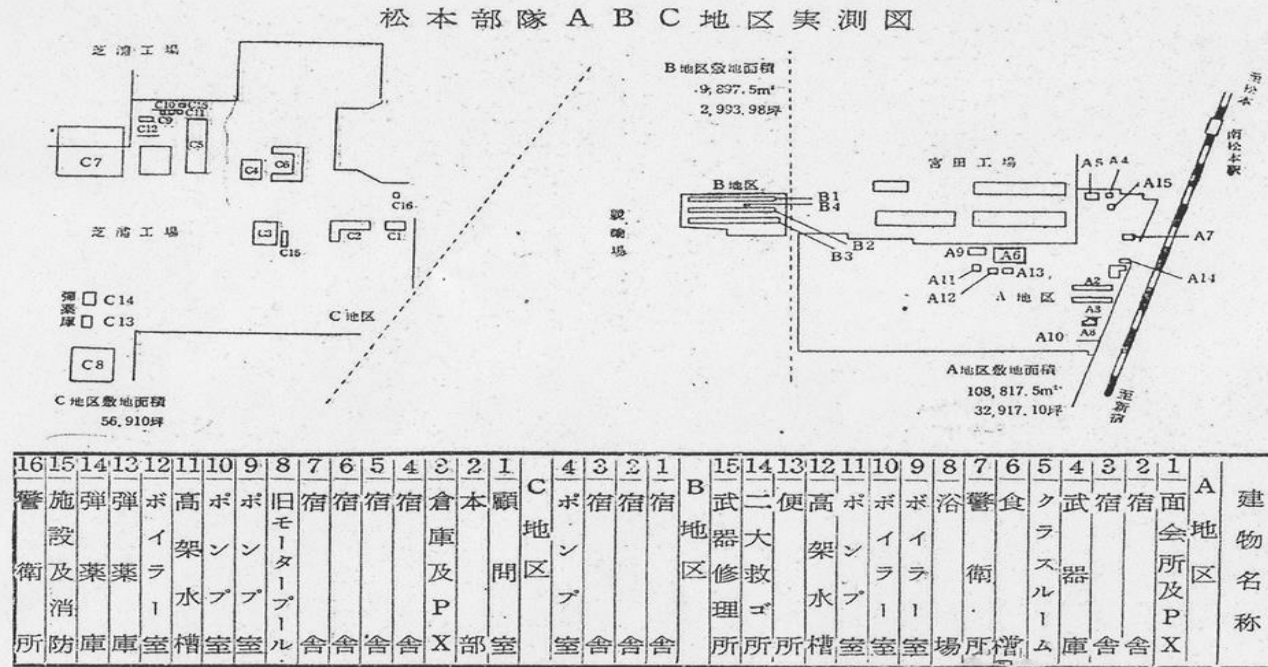


引込線と工場を利用

戦後復興期の松南地区 2

年	区分	月日	主な出来事	推考その他
1950 (昭和25) 年	松本市	6月25日	朝鮮戦争勃発 ⇒ 特需景気 に	<p>敗戦により「疎開工場」を迎えた「軍需の地」としての歴史は、ピリオドを打った。しかし、日本ステンレス、石川島芝浦タービン宮田製作所の跡地は、本地区の戦後の基盤となった。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 旧社宅は市民の住居となり、町会の発足を見た。 2. 警察予備隊（保安隊から自衛隊に）が誘致され、居住区も含め広範に使用された。 3. 競輪事業が市の財政再建策として期待された。 4. 更なる跡地利用として、協同乳業の進出など工業化が始まり、新しい居住地として期待されるようになった。
		12月25日	警察予備隊松本部隊 の駐屯 ← 地域経済復興のため、松本市が誘致運動	
			○ 宮田製作所と石川島芝浦タービンの敷地15万坪と宿舎（3000人分） を使用 ○ 本隊業務（芝浦工場内、C区）宿舎など生活区（宮田製作所内、A B区） ○ 保安隊（昭和27年）、自衛隊（昭和29年）に改称	
1951 (昭和26) 年		9月8日	サンフランシスコ平和条約 の締結＝戦争の終結（独立国家に）	
1952 (昭和27) 年	宮田		宮田自転車製作所の工場閉鎖 ⇒ 一部は、 三信松本製作所 として継承	
	南松本		宮田町会、宮田東町会 （昭和25年；鎌田地区の町会として発足）の成立 松本製紙株式会社 の設立 … 旧日本ステンレスを活用し、毎日新聞社が直営	
1953 (昭和28) 年	松本市		競輪場、累積赤字の打開策に失敗し、休業。	
	松本市		町村合併促進法（昭和28年）により、芳川村などが松本市に合併	
1954 (昭和29) 年	地区		・宮田町会＝出川、高宮、芳川野溝の一部で構成	
			・南松本1・2丁目町会＝出川、筑摩の一部で発足し、分町	
			・芳野町会＝出川、芳川野溝、芳川平田の一部で構成し発足（昭和30）	
	南松本		協同乳業開業；松本市が野球場を住民の承諾なしに協同乳業に売却し、訴訟に。	
1955 (昭和30) 年	宮田町		理美容学校が移転・新築	
	芳野町		市営住宅（20戸）で入居始まる	

資料 警察予備隊（現自衛隊）の駐屯



部隊全景（連隊本部、第一大隊、直轄中隊）



部隊全景（第二大隊本部及本部中隊、第五中隊）



部隊全景（第六、七、八中隊）

警察予備隊（自衛隊）の駐屯

昭和30年前後の地区の風景



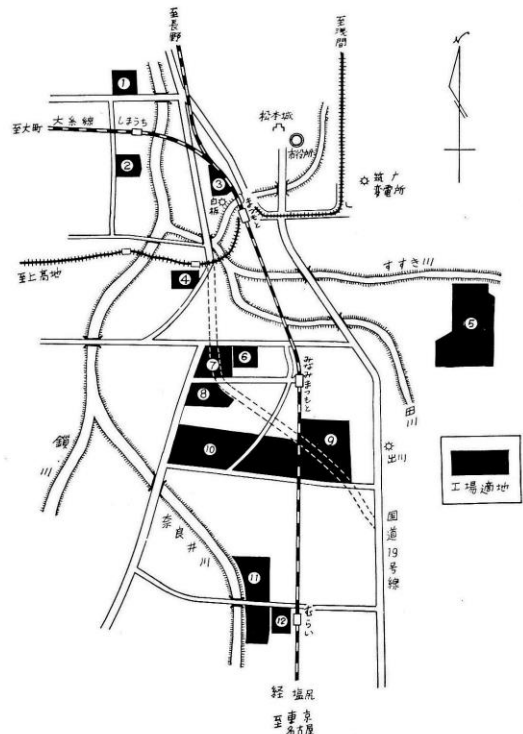
警察予備隊松本部隊から東を見る（自衛隊松本駐屯地提供）



警察予備隊松本部隊と松本競輪場の位置（自衛隊松本駐屯地提供）

松本市工場誘致計画

工場誘致予定地略図

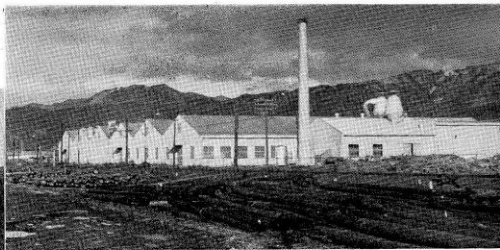
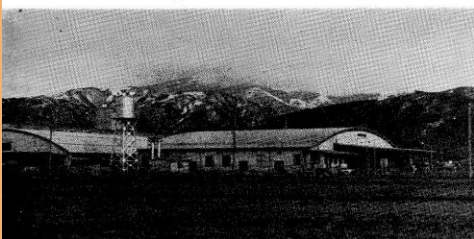


誘致した工場 (35.4.1)

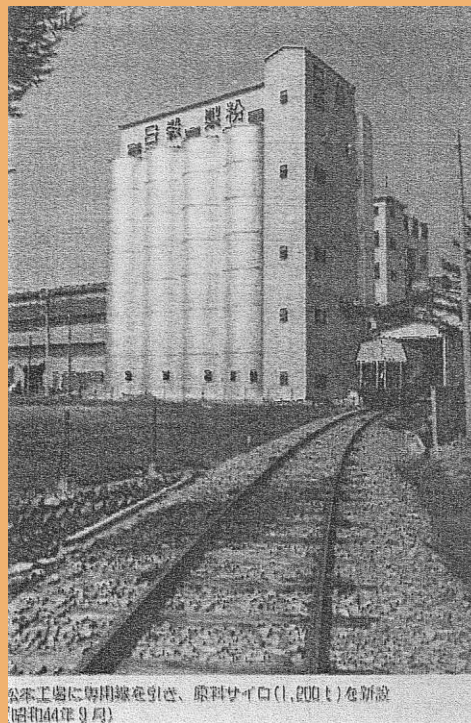
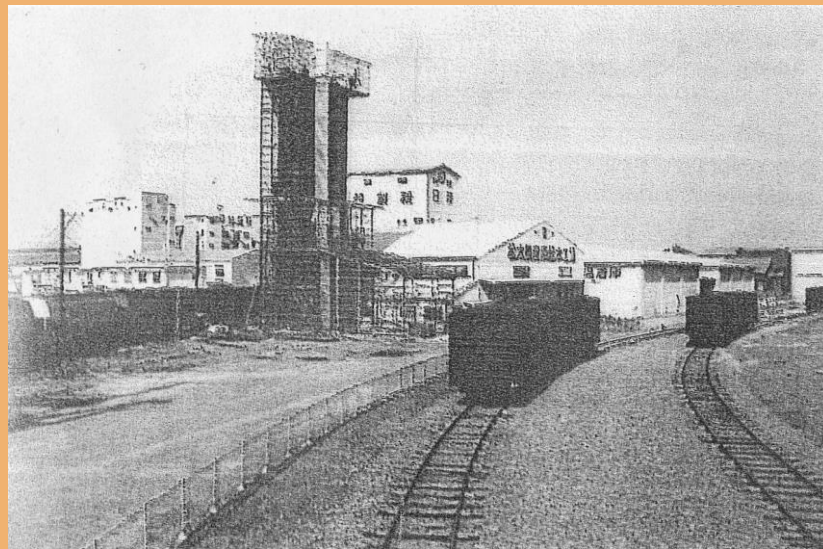
年 度	誘 致 工 場			新 設 工 場 名
	総数	増設	新設	
昭和29年度	1	—	1	森永乳業(株)松本工場 協同乳業(株)松本工場, 大栄産業(株)
30	5	3	2	
31	3	3	—	
32	1	1	—	カンロ飴(株)松本工場, 協同段ボール(株) 松本木工(株), 東洋食品(株)松本工場, 松本食品(株), 日信精穀(株), 日本理研加工(株)
33	3	3	—	
34	5	3	2	
35	14	9	5	

資料 商工課

誘 致 工 場



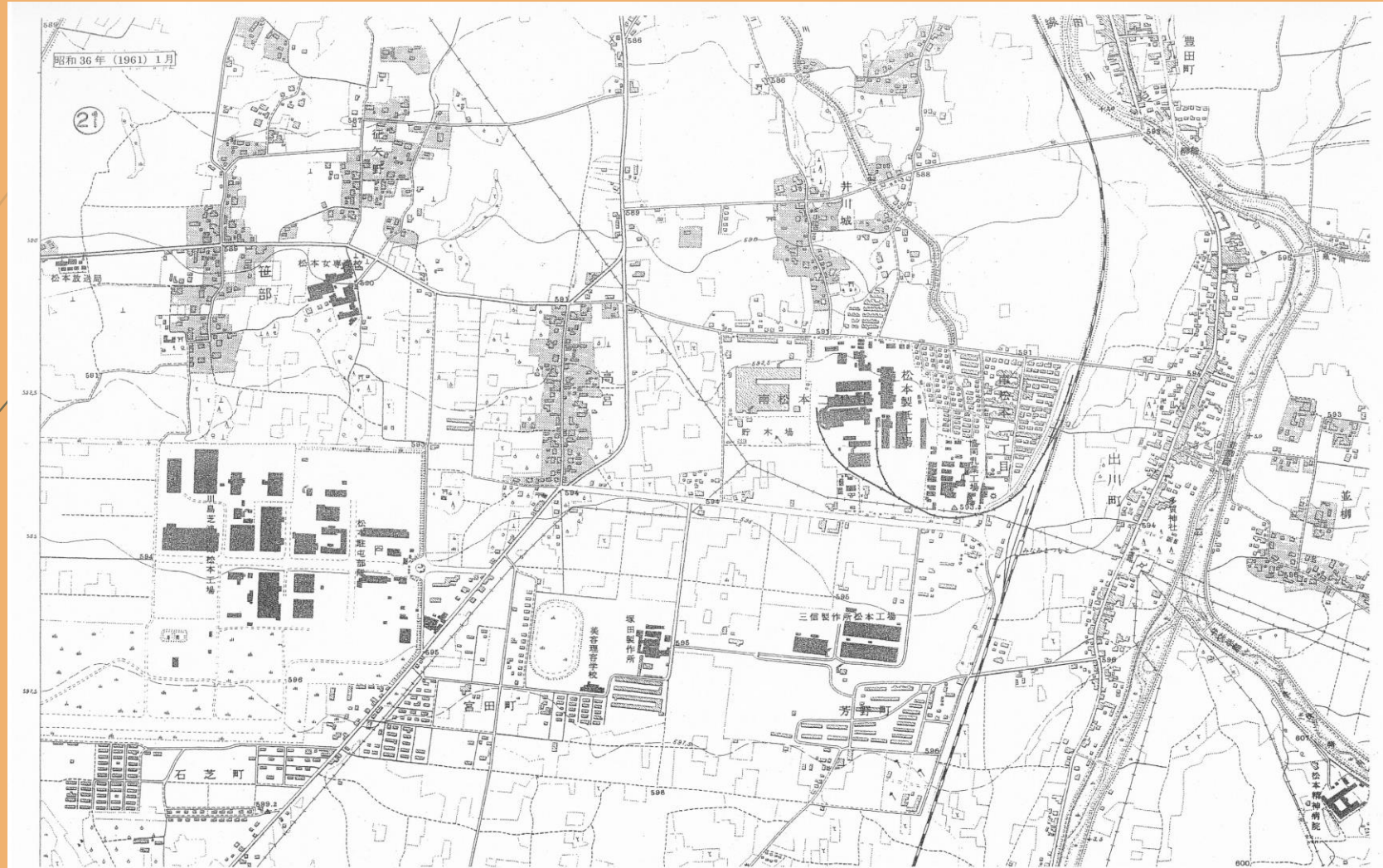
誘 致 工 場



公本工場に専用線を引き、原料サイロ(1,000t)を新設
(昭和44年9月)

誘致企業は、日本ステンレスへの引き込み線を活用した。なお、日穀製粉への鉄路は、松本製紙が増設したものである。

地図に見る松本南部（昭和33年測量図）



経済成長期の松南地区 1

年（元号）	区分	主な出来事	備考その他
1954（昭和29）年	南松本町会	南松本町会が、1丁目・2丁目町会に分町する。	<町会の誕生と成長>
1955（昭和30）年	市 芳野町	松本市工場設置奨励条例 ⇒ 「1960年＝黄金の60年」 自衛隊演習地跡に住宅団地が造成。市営100戸入居し、芳野町会を発足。	
1957（昭和32）年	宮田東	旧競輪場の一部に、家畜市場が開設 ⇒ 移転陳情運動へ。	宮田製作所や日本ステンレスの旧社宅、占領軍や自衛隊居住地の開放などで、個人住宅や公営住宅の建設が進み、現9町会が順次成立する。各町会は、公民館を自費で建設し、活動や交流の拠点としていく。その上で、町会連合会として連携し、地域課題に対応するようになる。
	宮田中	旧競輪場の一部に、理美容学校開設	
1958（昭和33）年	双葉町	南松本1丁目町会と高宮町会から分町し、双葉町会が発足する（40戸）。	
	市	松本市建設構想＝新規工業地区産業立地調査開始...南松本総合団地他	
1959（昭和34）年	南松本1丁目	公民館建設	
	芳野町	南部児童遊園地完成	
1960（昭和35）年	双葉町	東洋食品（ゴールドパック）・日穀製粉松本工場が、南松本総合団地に設立	南松本駅と国道19号バイパスは、本地区のみならず、松本の経済成長の交通インフラとなった。豊富な地下水をもつ南松本総合団地は、やがて「木工」「卸売り」団地に拡充、さらには大久保工業団地など工業の「西漸運動」を誘引した。昭和39年の「新産業都市」指定は、この一連の発展を裏づけ、応援するものとなった。
1961（昭和36）年	地区	松南地区町会連合会（南松1・2、双葉、芳野、宮田東、宮田町会）	
1962（昭和37）年	芳野町	公民館完成	
	宮田町	宮田町会が、野溝街道を境に宮田中町会と宮田西町会に分町	
1963（昭和38）年	地区	国道19号線バイパス（新橋～芳川平田間）が完成⇒鉄道離れの工業団地育成に	
	双葉町	公民館新設	

新しい町づくり～工業化～



松本工場建設用地全景



松本工場竣工披露式の日



松本工場竣工披露式風景



食品工場と貯水塔（昭和35年9月）

東洋食品(株)（現ゴールドパック）の登場
社史『30年のあゆみ』より

経済成長期の松南地区 2

年(元号)	区分	主な出来事	推考その他
1964(昭和39)年	双葉町	新産業都市に指定される⇒南松本駅隣接地を多目的な「総合団地」に ⇒ 鍋林が配送センターを双葉町に建設	
	地区	松南地区老人クラブ連合会発足 ⇒ 次第に町会ごとの老人クラブに分散	
1965(昭和40)年	宮田中	長野県教育センターの開設	
	双葉町	駅前通りに街路樹120本を寄贈される	<進出企業の事例～ゴールドパック～>
1966(昭和41)年	地区	鉄道引き込み線が可能なA地区(木工団地)の育成	昭和35年3月1日;創業
	市	松本空港開港...発議(昭和37年)「空港なき都市に未来はない」(降旗徳弥市長)	○ 理念;近代的な農畜産物の総合加工会社を作り、長野県農業の安定成長に寄与したい。(発起人の唐沢俊樹・五島慶太の願い)
1968(昭和43)年	地区	石油・セメント・食品など多様なB地区(卸売団地)の育成	○ 方法;トマトの契約栽培+先進的な冷蔵技術・食品加工工場+交通の便と豊かな地下水+農協との提携
		南松本駅の貨物基地化完成...長野管理局内で最大の貨物基地に	○ 展開;「季節的制約」を克服するため、多品種少量生産や製麺業にも挑戦
1969(昭和44)年	地区	タケヤ味噌が南松本2丁目に、またキッセイ薬品が芳野町に中央研究所を開設	
	南松本1丁目	南松本保育園、現地に改築し、開園	
1970(昭和45)年	宮田中	旧競輪場跡地に、開明小学校が開校...前年、鎌田小学校内に設立	
1971(昭和46)年		公民館完成(⇒平成元年;2階増築)	
	宮田東	公民館完成	
1976(昭和51)年	宮田中	宮田保育園(昭和49年、市に移管)が現地に改築し移転	
	地区	南松本商工振興会発足	
1979(昭和54)年	地区	町内公民館長会発足	
1981(昭和56)年	宮田西	宮田祭り(～1983年)、最後の町会運動会	

現在の原型ができる（昭和45年地図）



経済成長期の松南地区 3

年（元号）	区分	主な出来事	推考その他
1982（昭和57）年		塩嶺トンネルの貫通（17年間）⇒松本・諏訪地区が通勤圏に	<利便性が向上し、優良な生活地域に>
1983（昭和58）年	地区	松本市総合社会福祉センター開所	鉄道と国道19号線の利便性と市による総合団地など企業誘致策も奏功し、工場のほか大型小売店も進出した。住宅は個人に加え、次第にマンションなど集合住宅を招き、また開明小学校や信明中学校や社会福祉センター、「なんなんひろば」など公共施設もでき、松本南部の「副都心」と通称されるようになった。しかし一面では、大型小売店と地元商店との軋轢など、構造改革に伴う諸問題も発生してきた。
1984（昭和59）年	地区	双葉南町会発足 ⇒ 松南地区8町会に	
1985（昭和60）年	地区	双葉西町会発足 ⇒ 松南地区9町会に ⇒ C棟・集会所も完成	
		信明中学校開校	
1986（昭和61）年	地区	やまびこ地下道開通 ⇒ 同所から南松本駅前までの道路完成（1987年）	
	双葉西	D棟完成 = 双葉第2団地（140戸）が確定	
1987（昭和62）年		国鉄民営化 = 東日本旅客鉄道株式会社に	
	双葉西	ふれあい餅つき大会始まる ⇒ 翌年から三九郎にも参加	
1988（昭和63）年	地区	松本市南部まちづくり協議会発足	
	市	長野道松本・岡谷間が貫通	

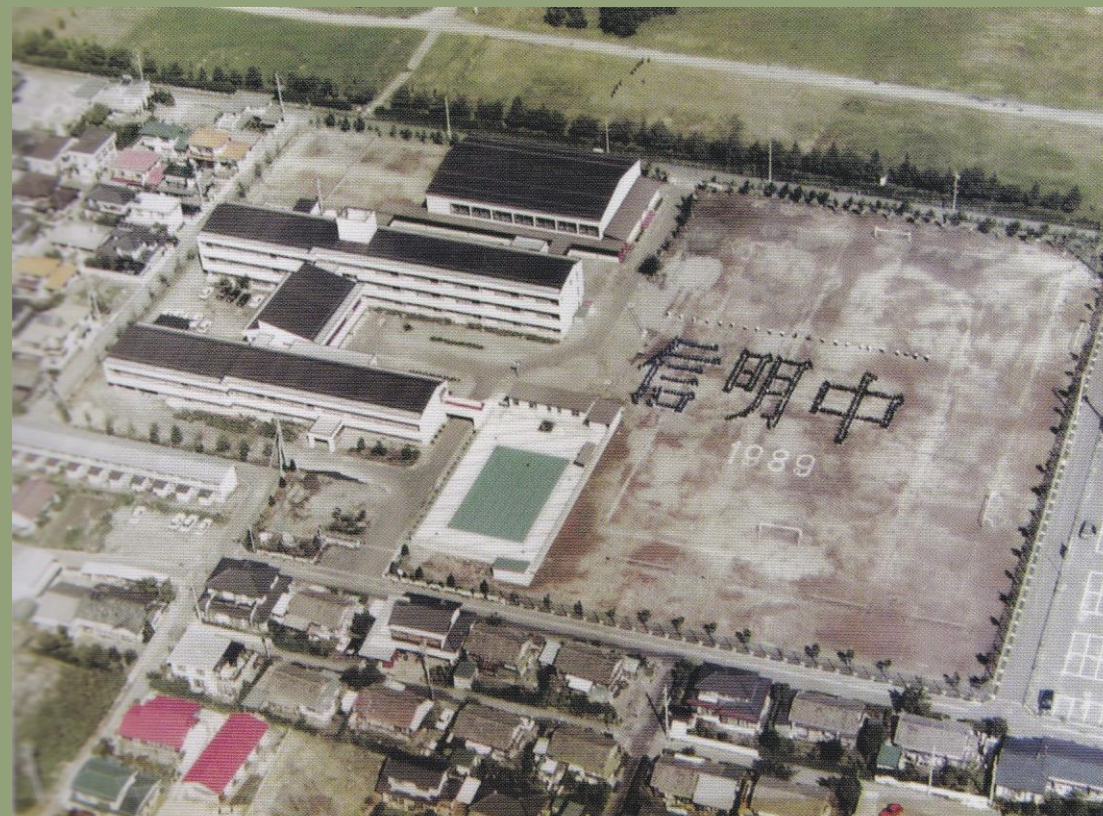
安定成長期の松南地区 1

年（元号）	区分	主な出来事	推考その他
1989（平成元）年	地区	南部体育館完成	
1990（平成2）年	地区	なんなんひろば開館...松本市南部地域の総合的な社会教育施設として	<p><地域づくりの進展></p> <p>各町会は成り立ちの違いから特性を持ち発展し、<集合住宅＝町会>として双葉南・双葉西町会が設立され、9町会の地区となった。</p> <p>各町会は文化祭や周年行事など町会企画で交流に努め、まちづくりを促進している。1990年、宮田中町会が松本市モデル公民館に指定されたのは、好例である。</p> <p>つながりが乏しい人口密集地で如何に絆を作るかは課題である。町会連合会は、1993年、ジャスコ南松本店と提携し、開店時から9町会連携の象徴として、「なんぶ未来まつり」を開催した。盆踊りや球技大会も、地区交流の一翼を担ってきた。</p>
		地区全域に都市下水道が完成	
		カリヨンが、松本東ライオンズクラブから寄贈される⇒演奏や表彰式	
		納涼盆踊り大会なんなんひろば開催（松南庄内地区連合会共催）～1994年	
		南部大型店問題...ジャスコ、イトーヨーカ堂などの出店をめぐり、議論が高まる	
	双葉西	花いっぱい運動で、優秀賞受賞 青山様・ぼんぼんも開始	
	宮田中	宮田中公民館が、松本市モデル公民館に。	
1991（平成3）年	地区	松南地区30周年記念式典⇒30周年球技大会、ふれあい大運動会（開明小学校）	
	宮田西	公民館改築・竣工式（9月8日）	
	双葉町	大型店対策委員会発足	
1992（平成4）年	地区	記念誌『なんぶ』発刊	
1993（平成5）年	地区	ジャスコ南松本店開店 ⇒ 第1回なんぶ未来まつり開催	
	宮田中	分町30周年記念式典	
	双葉町	町会発足35周年、公民館建設30周年記念式典	

現在の風景に



なんなんひろば開設



平成元年

信明中学校（昭和60年開校）

安定成長期の松南地区 2

年（元号）	区分	主な出来事	推考その他
1994（平成6）年	地区	松南地区体育協会10周年記念式典 「穴田川をきれいにする会」が第44回日本善行会で優良団体表彰	<p>< そして、今...></p> <p>「松本市都市計画マスタープラン」（2020年～）で複合業務・地域商業地区の「地域拠点」の一つと位置づけられる有望地区となっている。しかし居住地としての課題は大きい。少子高齢化が進み、独居老人の比率が23%という市内2位の地区であり、多方面での「ケアのまちづくり」が問われている。また、町会活動も役員などの高齢化と担い手不足に悩まされている。さらに2011・6・30地震で被害を被った地区として、防災対策も急務である。</p> <p>上記の喫緊の課題に応じるのは無論、「地区のかたち」が出来上がった今、中長期的ビジョンを構築するのが「今」であろう。</p>
	双葉町	「双葉町35年の歩み」を刊行	
1995（平成7）年	双葉西	10周年記念式典、記念誌発行	
	芳野町	公民館改修	
1996（平成8）年	宮田中	長野県教育センターが塩尻市片丘に移転	
	宮田東	町会発足50周年	
2000（平成12）年	地区	「なんなんひろば10年の歩み」発行	
2002（平成14）年	地区	なんぶ未来まつり10周年	
2003（平成15）年	地区	松南地区福祉ひろば竣工 信濃むつみ高校（通信制）開校	
	地区	南松本駅舎改築	
2005（平成17）年	地区	松本理美容専門学校 移転新築	
	芳野町	県営南松本団地A1号棟の取り壊し	
2006（平成18）年	地区	庄内公民館の完成＝南部公民館が分離し、事実上、松南地区公民館に。 なんぶ未来まつり後夜祭として盆踊り開催⇒翌年も。 南松本駅南側踏切が、国土交通省調査で「開かずの踏切」に認定	

安定成長期の松南地区 3

年（元号）	区分	主な出来事	推考その他
2007（平成19）年	地区	南松本駅南側踏切の立体化事業が認可	
2009（平成21）年	地区	イオン南松本店駐車場で、第1回ラーメン博を開催	
2010（平成22）年	地区	南松本駅南側踏切の立体化事業が測量を実施⇒用地交渉が難航し、進展せず。 開明小学校周辺に熊1頭出没し、捕獲される。	
2011（平成23）年	市 地区	東日本大震災が発生 長野県中部地震（震度5強～6）で、地区内でも家屋などの損壊が発生 コミュニティバス運行開始	
2012（平成24）年	地区	第20回なんぶ未来まつり	
2013（平成25）年	宮田西 宮田中	「宮田西町会50年」記念誌発行 創立50周年記念式典を開催	
2014（平成26）年	地区 南松本2丁目	「南部公民館」から「松南地区公民館」に改称 信明中学校コミュニティースクールとして、出前講座開始 協同乳業閉鎖	
2015（平成27）年	地区	松南地区連合会により、カリヨンイルミネーション、3年ぶりに復活	
2016（平成28）年	地区	福祉ひろば、新装なった「なんぷくプラザ」に移転 松南地区地域づくり推進協議会が、「健康とくらしの調査」を実施	
2017（平成29）年	地区	開明小学校コミュニティースクールとして授業への参観や支援を開始 なんぶ未来まつりが25回に なんなんひろば文化祭に、日赤奉仕団の炊出し訓練も参加	

新しい町づくり



福祉の町へ（喫茶ポリジ開店）



前市長と松南地区の未来像を語る市政懇談会

安定成長期の松南地区 4

年（元号）	区分	主な出来事	推考その他				
2018（平成30）年	地区	松南地区「公民館居酒屋」が始まる...双葉町公民館	<地区人口の現状...2021年9月>				
		松本市の未来図「立地適正化計画」で、居住誘導地域の一つに					
2019（平成31～令和元）年	地区	なんなんひろば文化祭を「 なんなんフェスタ 」に改称し、実施	南松本1丁目	247	218	249	467
	市	避難行動要支援者名簿が統合	南松本2丁目	213	166	223	389
2020（令和2）年	地区	松南地区地域ケア会議により、各町会のケアの到達点と課題を確認	芳野町	451	363	467	830
		新型コロナウイルスの感染が拡大 ⇒ 休校、行事の中止が相次ぐ 例；なんぶ未来まつり、なんなんフェスタ、市民祭など	双葉町	539	541	555	1,096
			双葉南	133	94	157	251
		開明小学校避難所運営委員会、南部体育館避難所運営委員会の発足	双葉西	136	123	180	303
2021（令和3）年	地区	新型コロナの波状感染で、昨年度同様、行事の中止が相次ぐ	宮田中	514	596	613	1,209
			宮田東	173	205	200	405
			宮田西	451	363	467	830
			松南地区	2,657	2,567	2,907	5,474